

令和6年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立飛騨吉城特別支援学校 学校番号 120

自己評価

学校教育目標	「地域で育ち、学び、共に生きる」 児童・生徒が、生まれ育った地域で、いろいろな人たちと共に生活をしていくために、一人一人の障がいの状況や能力に応じて、個々のもてる力を高める。	
評価する領域・分野	「教育活動・学習指導」	
現状及びアンケートの結果分析等	当校の教育方針に対して肯定的な回答が90%を超えているため、概ね妥当であると受け止めていただいていると言える。ただし、いくつかの項目で否定的な意見もあったことから、今後も保護者一人一人の意見に耳を傾け、全職員が同じ姿勢で教育活動に臨む必要がある。	
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の教育的ニーズに応じて、個々の可能性を最大限に発揮できる教育的支援をする。 ・安心して学校生活を送ることができる環境づくりを進め、周りとのかかわりの中で児童生徒一人一人の自己実現を促す。 ・一人一人が自己実現に向けて、能力や特性に応じた主体的な進路選択、進路決定ができる環境をつくる。 	
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・主事会及び企画委員会、各分掌会、各部会 ・校内研修グループ ・職員研修会 	
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・専門性の向上を目指した校内グループ研修（キャリア教育、性教育、情報モラル、ICT教育）の実施 ・児童生徒理解や支援、授業力向上を目的とした職員研修会を実施 ・個別の教育支援計画をもとに支援に関する共通理解を図るケース会議を実施 	
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活全般における児童生徒一人一人の目標の達成状況 ・取組実施状況及び実施後の自己評価 	
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・担当、行事ごとに自己評価を行い、次年度の方策を定めた。 ・研修グループごとに、有効な支援方法等について検討し共有した。 	
評価の視点	評価	
①グループ研修等を通じて指導力向上することができたか。	A <input checked="" type="radio"/> B C D	
②一人一人の障がいの状況に応じて、自分らしく活動するための支援ができたか。	A <input checked="" type="radio"/> B C D	
③一人一人が充実した学校生活を送ることができたか。	A <input checked="" type="radio"/> B C D	
成果・課題	総合評価	
<ul style="list-style-type: none"> ○職員が積極的に研修を受講し、指導力の向上を目指して知識や技能を習得する機会を作ることができた。 ○個々の児童生徒の対応や支援について、学級担任だけでなく、全職員が連携して共通理解のもとで支援方法を計画し、実施することができた。 ▲グループ研修で学びあったことを、全職員で共有し、教員全体の専門性の向上につなげる必要がある。 	A <input checked="" type="radio"/> B C D	

来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> 職員が引き続き自分の学びたいテーマを中心に研修グループを編成し、指導力向上を目指して学び合う。また、習得した知識や技能を他の職員に還元していく。
---------------	--

評価する領域・分野	「保護者、地域との連携」	
現状及びアンケートの結果分析等	地域連携に関しては、交流活動を通して児童生徒の経験を広げているかという設問に対する肯定的評価が90%を超えており、非常に高い評価をいただいている。ただし、家庭との連携・意思疎通については改善の余地がある。	
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 学校の立地条件や小学校が隣接する利点などを生かして、保護者や地域、関係機関との連携を一層深める。 地域の教育的資源を活用した体験的な学習や交流学习を実施する。 	
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> 主事会及び企画委員会、各分掌会、各部会 支援センター 	
目標の達成に必要な具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> 小学校と隣接しているという地理的利点を活用し、持続可能な交流を推進する。 小学部段階から系統性をもって地域での体験活動を行い、意欲や態度を育成する。 	
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> 取組実施状況及び実施後の自己評価 アンケート等外部評価 	
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> 地域団体（青龍会）、地域の学校との交流を積極的に進めた。 古川小学校との交流（なかよしタイム）を隔週で行うなど、相互理解に努めた。 保護者との連携を丁寧に行った。 	
評価の視点		評価
①交流活動を通して児童生徒の経験の幅を広げることができたか。		Ⓐ B C D
②地域の学校との交流を通して、相互理解を深めることができたか。		A Ⓑ C D
③保護者の理解を得ながら、協力して児童生徒の支援を行うことができたか。		A Ⓑ C D
成果・課題		総合評価
<ul style="list-style-type: none"> 〇ホームページを積極的に更新したことで、閲覧数が増加し、多くの方に当校の様子を知ってもらうことができた。 〇学校外の多くの方とかわることで、将来地域でよりよく生きるための準備をすることができた。 ▲全職員が保護者に伝えるべきことを共通理解し、懇談等の機会を利用してわかりやすく伝える必要がある。 		A Ⓑ C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> 今年度実施した交流のほかに、新たな取組を相手校に提案し、よりよい交流をするための打合せを十分に行う。 懇談時に保護者に伝える内容を明確にし、全職員が事前に理解したうえで懇談を行う。 	

学校関係者評価（令和6年11月21日実施）

意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> 地域との交流が増えているように感じる。地域とのつながりによって、子どもたちの学びの場が増えることはよいことである。 企業への発信など、横の広がりを感じた。地域で働く人を育てるために、今後も積極的に進めてほしい。 アンケート結果の否定的意見は、保護者の不安の表れではないか。保護者の思いを聞きながら、連携を密に図っていくとよい。

